

第 15 回岐阜県国保地域医療学会を開催

メインテーマ 「今、求められる地域医療とは」

平成 21 年 1 月 15 日 (日)、岐阜県県民ふれあい会館にて、第 15 回岐阜県国保地域医療学会を開催し、県内の国保診療施設に勤務する医師等、関係職員のほか、市町村の国保・衛生、大学、研修医、研修指定病院、介護施設などから 320 名が参加のもと、日頃の研究成果の発表、特別講演、シンポジウムを行いました。

開会式は、第 15 回岐阜県国保地域医療学会 土川権三郎学会長 (高山市国保丹生川診療所長) の開会挨拶で始まり、岐阜県国保診療施設協議会 高山哲夫会長 (国保坂下病院長)、岐阜県国保連合会 小川敏理事長 (大垣市長) の主催者挨拶の後、岐阜県健康福祉部 平山宏史医療技監の来賓挨拶が行われました。

研究発表では、毎年、取り組みの課題と改善意識を持って国保診療施設の医師、看護師等の従事者、市町村保健師、事務職等が一堂に会し一年間の総括として、平成 6 年度の初回開催時から継続して 50 演題以上の研究発表が行われ、今学会でも、3 会場に別れて 56 演題の研究発表があり、参加者からも具体的な質問、提言等がなされ熱心に討論が交わされました。

また、毎年、全国国保地域医療学会で岐阜県から優秀な研究発表がされるよう、各発表の座長、各会場の責任者による採点・推薦に基づき、高山会長をはじめとする優秀研究発表者選考委員会において優秀研究発表者を選定し、学会当日に表彰と全国学会への推薦を行っています。今回は、最優秀賞に国保飛騨市民病院 看護師 萩幸子氏の「退院調整困難事例を通して学んだ事」が選ばれ、優秀賞には国保坂下病院 薬剤師 西尾晃氏、同 言語聴覚士 安江耕作氏が選ばれました。

特別講演では、全国国保診療施設協議会会長 富永芳徳氏 (公立甲賀病院長) による「国保直診の現状と課題 ～地域における医療の再生を求めて～」と題した講演が行われ、国診協の理念である地域包括医療の推進と地域包括ケアシステムの構築、市町村合併、医療保険制度改革、公立病院の改革プラン、医師・看護師不足など、国保診療施設の直面する課題、公立甲賀病院の取り組みなどについて述べられました。

続いて行われたシンポジウムでは、「わが地域で求められている医療」をテーマに、直診開設者代表 日置敏明郡上市長、診療施設代表 古田智彦下呂市立金山病院長、伊左次悟白川村国保白川診療所長、介護施設から原孝俊中津川市特養恵翔苑施設長、市町村保健師代表の早川みどり恵那市健康推進課保健師が演者として、それぞれの立場から取り組みを発表されました。パネリストからは、地域医療の今後の在り方について、①住民・医療従事者・行政が一体となり、フォーラム、研究会を開催し住民のニーズに応える。②医療・保健・福祉を含めた包括ケアを展開していく仕組み作りが必要 ③生活習慣病等地域住民の疾病予防のため直診としての取り組みや行政との連携が必要等を述べられました。会場からは、地域に根付いた医療の提供を行い、住民から期待される直診で在り続けることが必要であることや、「地域包括医療・ケア」を推進するためには、国保直診関係者が使命感と熱意を持ち、地域住民・患者の理解・信頼を得ることが最重要である等の意見が出され、富永国診協会長からも特別発言者として助言をいただき、活発な討議が行われました。

最後に、平成 22 年度第 16 回岐阜県国保地域医療学会の担当地区及び学会長を発表し、次期学会長に決定した、岐阜地区の瀬古章国保関ヶ原病院長の挨拶が行われ、第 15 回学会副学会長の黒木嘉人国保飛騨市民病院長の閉会の挨拶で学会の全日程を終えました。